

「第3次まいばら福祉のまちづくり計画（案）」についての米原市パブリックコメントに対して提出された意見等と
その意見等に対する市の考え方および検討結果について

案 件 名： 第3次まいばら福祉のまちづくり計画（案）

意見募集期間： 令和5年11月20日（月）～令和5年12月11日（月）

所 管 課： 暮らし支援部福祉政策課

提出された意見等の内容	提出された 意見の数（人数）	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
第4章－取組の方向4福祉のこころを育みます（P.50） 「■誰もが社会参加しやすい環境づくりのため合理的配慮の推進に努めます」となっているが、県条例や国の差別解消法でも義務とされているので「努めます」では不十分。「合理的配慮の提供を行います」とすべき。	1件（1人）	御意見いただいた箇所について、文章表現を修正します。 「■誰もが社会参加しやすい環境づくりのため合理的配慮の推進に努めます」を「誰もが社会参加しやすい環境づくりのため合理的配慮を行います。」と改めます。	県条例や国の差別解消法の内容に沿った表現が相応しいことから、修正を行います。
第4章－取組の方向7暮らしの安心を確保します（P.55） 滋賀県の資料では、米原市のバリアフリー基本構想、平成15年7月に策定済みとなっているが、更新はされていない。 バリアフリー基本構想の内容が計画性と戦略性をもって当事者参画で継続的にバリアフリー・UD化を進めていけるものになっているか？	1件（1人）	御意見いただいた箇所について、文章表現を修正します。「■すべての人にとって暮らしやすいまちづくりをめざし、ユニバーサルデザイン化を進めます。」を「■すべての人にとって暮らしやすいまちづくりをめざし、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化を進めます。」と改めます。	生活していく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）し、生活しやすくするバリアフリーの考え方は、ユニバーサルデザインの考え方と併せて推進すべきものであるため修正します。なお、平成15年7月策定のバリアフリー基本構想は、米原駅周辺地域におけるバリアフリーについて定めたものです。本計画は各福祉計画の上位計画として米原市全体の福祉のまちづくりを進める基本的な方針であり、本計画に基づき進めていきます。

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>計画全体</p> <p>計画全体を通して、語句の「誰」と「だれ」、「一人」と「ひとり」など、漢字表記とひらがな表記が混在している。その他、「市民」と「住民」などの類似語も混在している。これらについて、意図的に使い分けているのならば、説明なり注釈が必要ではないだろうか。また、誤字脱字や消し忘れも見られる。</p>	1件(1人)	<p>御意見のとおり、漢字表記とひらがな表記が混在している語句については統一します。</p> <p>また、「市民」と「住民」については、使い分けの意図に基づき、修正をします。</p> <p>誤字脱字等については、修正を行います。</p>	特定の地域の人を指す言葉については「住民」、特定の地域を超えた米原市全体の人を指す場合は「市民」と表記しています。
<p>計画全体</p> <p>計画全体を通して、障がいがあっても見やすい、わかりやすいユニバーサルデザインのフォントの使用を検討いただきたい。</p>	1件(1人)	御意見のとおり、ユニバーサルデザインのフォントで表記ができていない箇所について、ユニバーサルデザインのフォントに変更します。	より多くの人を読んでいただけるよう、ユニバーサルデザインのフォントで表記することが望ましいと考えます。
<p>第3章－4 地域福祉の展開方法－(2) 地域福祉に関する課題解決に向けた支援体制(P.44)</p> <p>「■支援体制のイメージ」図の下部、「基本方針Ⅲに関する支援体制・取組」の枠内に「権利擁護」とあり、この「権利擁護」が何を意味するのか不明確だが、仮に成年後見制度、地域福祉権利擁護事業および市民後見人などの権利擁護支援(制度)を意図するものならば、権利擁護は基本方針Ⅰ・Ⅱにも位置づけられなければ、「取組の方向1～」に挙げる取組の内容と整合性が取れないのではないか。</p>	1件(1人)	<p>御意見いただいた内容について、図中の基本方針Ⅲに関する支援体制・取組にある「権利擁護」を「暮らしの安心」に修正します。</p> <p>また、暮らしの基盤整備を強調するため、同頁の「福祉サービスや権利擁護のための福祉人財の確保や防災体制など安心して暮らせる基盤・安全等の確保に関する取組を展開します。」を「福祉サービスや権利擁護等の制度施策の基盤整備のほか、福祉人材の確保や防災体制など安心して暮らせる基盤・安全等確保に関する取組みを展開します。」に変更しました。</p>	「基本方針Ⅲ 安心して暮らせる基盤づくり」に関する支援体制・取組に沿った表記にすることが相応しいことから、表記の変更を行います。
<p>第4章－取組の方向4 福祉のこころを育みます(P.50)</p> <p>取組の方法4の「福祉の心をはぐくみます」の「福祉」という表現が、一般市民にとっては抽象的で分かりにくいのではないかと(人によって解釈が異なるのではないかと)。</p>	1件(1人)	計画案のとおりとします。	めざすまちの姿に記載のとおり、誰もが福祉について学び、体験する機会に参加することで、違いを認め合い支え合いの大切さを示したものです。

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第4章－取組の方向1 相談しやすい環境を整えます(P.45)</p> <p>第4章－取組の方向2 支援がつながる仕組みをつくります(P.47)</p> <p>第4章－取組の方向7 暮らしの安心を確保します(p.55)</p> <p>取組の方向1「相談しやすい環境を整えます」、取組の方向2「支援が繋がる仕組みをつくり」、取組の方向7「暮らしの安心を確保します」などについて、早期把握(発見)、早期対応の考え方は首肯できるが、いずれにせよ課題発生後の(事後)対応を前提として取組の項目を挙げているように読める。</p> <p>言うまでもなく、課題は発生しない方がいい。特に権利擁護の場合は、課題発生によって本人自身の尊厳はもとより、家族関係や地域関係を損なうことも多く、「予防」は殊更に重要である。そこで、原案に加えて「予防」の視点を取り入れることはできないか。</p> <p>例えば、生活課題を抱えやすい世帯特性のリスト化や課題の前兆シグナルなど(実際にはチェックリストなどが必要)を把握した場合、市へ情報提供することを求め、市(重層・中核機関等)がアウトリーチするなど。また、社会福祉協議会が実施されている「なんでも相談会」は市民の生活課題を司法・福祉の専門的視点によって、ワンストップで解決、緩和しようとする取組みで、今や米原市の重要な社会資源になりつつある。計画内に明記することはできないだろうか。</p>	1件(1人)	計画案のとおりとします。	<p>取組の方向1「■市民が気軽に相談できる窓口を設置し、周知・啓発するとともに、オンライン相談やアウトリーチによる相談等、相談支援の充実を図ります。」</p> <p>「虐待に関する相談窓口を設置し、周知することで、虐待の早期発見・早期対応、虐待者や被虐待者の自立支援等につながるよう、関係機関・団体、地域との連携強化に努めます。」</p> <p>取組の方向7「■これからの暮らし方を家族や関係者に伝える手段を確保し、普及します。」</p> <p>上記のとおり記載しており、「予防」の考え方を取り入れています。</p> <p>なお、なんでも相談会については、個別事業の名称であり、前述の取組に含まれるものと考えます。</p>

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第4章－取組の方向2 支援がつながる仕組みをつくり ます(P.47)</p> <p>P47. 特に、取組の方向2「支援がつながる仕組みをつ くります」の「市民、事業者、福祉事業者等」について、 三者を一項目にまとめて説明するのは難しいのではない か。市民は担い手の1人ではあるが、事業者、福祉事 業者等とは役割が違うと思う。併記することに違和感 がある。</p>	1件(1人)	計画案のとおりとします。	市民、事業者、福祉事業者等と記載して おり、市民活動と社会活動を一体として 表しています。
<p>第4章－取組の方向2 支援がつながる仕組みをつくり ます(P.48)</p> <p>支援・サービスを必要とする市民は、必要な範囲で情報 提供・共有に「同意します」という表現を使われている が、計画でこのような表現を使うことは如何なものか。 同意を半ば強制しているような印象を受ける。例えば、 「協力します」などの書き方がいいのではないか。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、「■各種 支援や福祉サービスを必要とする市民は、 福祉事業者や地域住民に対して、必要な範 囲で情報を提供します。」に修正します。	御指摘のとおり、同意の表現が半強制的 な表現であることから、相応しい内容に 修正します。
<p>第4章－取組の方向2 支援がつながる仕組みをつくり ます(p.48)</p> <p>福祉事業者はさておき、個々の市民が主体となり「利用 者の同意を得た上で会議を開催」(主催)することは現 實的に難しいのではないかと思う。市民と福祉事業者、 行政などの関係機関が「協働して」の方が現實的ではな いだろうか。 ※まちづくり協議会などをイメージしているのだろうか？ 仮に、それだとしても説明不足ではないか。</p>	1件(1人)	計画案のとおりとします。	市民による支え合い活動においても、情 報や支援内容を協議する会議が開催され ていますので、表記は現状とします。

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第4章－取組の方向3 みんなが活躍できる機会をつくれます(P.49)</p> <p>P49. 取込の方向3「みんなが活躍できる機会」をつくり、《めざすまちの姿》「誰もが自分らしく、人とつながり、活躍できるまち」をめざすのならば、「市民、事業者、福祉事業者」欄に市民後見人などが入ってもいいのではないだろうか。</p> <p>なぜならば、他市町の例から市民後見人希望者の多くが50～60歳以上であることに鑑み、いわゆるセカンドライフ(第二の人生)の社会貢献活動として市民後見人を位置づけ、活動を通して壮年後期から前期高齢者が(これまでに培ってきた経験やノウハウを生かして、今度は地域＝米原市の中で)「自分らしく、人とつながり、活躍できる」社会を実現する。</p> <p>〔例〕■市民は、市民後見人や権利擁護サポーターをはじめとする、さまざまなボランティア活動、地域貢献活動を通して、お互いに支え合い、助け合うことのできる誰一人取り残さない地域づくりに協力します。</p>	1件(1人)	<p>御意見いただいた内容について、</p> <p>「■市民は、ボランティア活動や地域における福祉活動のほか、市民後見人等の権利擁護にかかる支援活動を通じて、誰もが地域の一員として暮らせる福祉のまちづくり活動に参加・協力します。」を追記します。</p>	<p>めざすまちの姿である「誰もが自分らしく、人とつながり、活躍できるまちをめざします。」を達成するため、必要な表現を追記します。</p>
<p>第4章－取組の方向3 みんなが活躍できる機会をつくれます(P.49)</p> <p>P49. 取込の方向3「みんなが活躍できる機会」について、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の利用促進によって、被後見人などの社会参加が促進されることは、「みんなが活躍できる機会」「誰もが自分らしく、人とつながり、活躍できるまち」につながるのではないか。したがって、「市」や「社会福祉協議会」の部分に、「■成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の利用を促進することで、認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者などで物事を判断しづらい人が自分らしい生活を営み、地域の一員として社会参加し、活躍できるように支援します。」などの一文があってもいいのではなかろうか。</p>	1件(1人)	<p>御意見いただいた内容について、</p> <p>「■自分らしい暮らしの実現、地域の一員として参加・活躍できるよう、福祉サービスやその他制度を有効に利用・活用します。」を追記します。</p>	<p>めざすまちの姿である「誰もが自分らしく、人とつながり、活躍できるまちをめざします。」を達成するため、必要な表現を追記します。</p> <p>また、取組の方向3の社会福祉協議会の欄に、「■生活リズムを整えたり、就労に向けた体験の提供等、社会とつながるためのステップの場をその人の状況に合わせて提供します。」とあり、御意見いただいた内容については、この表記でも対応できるものと考えています。</p>

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第4章－取組の方向4 福祉のこころを育みます(P. 50) 第4章－取組の方向5 人と人とがつながり、支え合う機会を広げます(P. 51)</p> <p>P 50. 取組の方向4「福祉のこころを育みます」では、なによりもまず、高齢者、障がい者、子ども、ひとり親家庭や生活困窮者など、いわゆる当事者を、また、当事者の暮らしぶりや生活課題を知ることが第一である。そのためには学習や体験の際に、当事者の声を聴く機会をつくるべきではないだろうか。</p> <p>また、P 52. 取組の方向5「人と人とがつながり、支え合う機会を広げます」においても同様である。「当事者の声を聴く機会」を明記できないだろうか。</p>	1件(1人)	<p>御意見いただいた内容について、取組の方向4の社会福祉協議会欄の「■市民、当事者や福祉事業所に対して、学びのプログラムへの参画を呼びかけます。」を「■市民や福祉事業所に対して、当事者の声を聴く機会等の学びのプログラムへの参画を呼びかけます。」に修正します。</p> <p>また、市民、事業者、福祉事業者等欄の「市民は、学びのプログラムに参加・協力し、共に学び合います。」を「■市民や福祉事業者は、当事者の声を聴く機会等の学びのプログラムに参加・協力し、共に学び合います。」に修正します。</p>	<p>取組の方向4に、左記文章を追記することにより、いただいた御意見に沿った内容になるものと考えています。</p>
<p>第4章－取組の方向5 人と人とがつながり、支え合う機会を広げます(P. 51)</p> <p>P 51. 市民後見人については、取組の方向6「福祉人財の確保に取り組みます」という観点でのみ登場するが、本計画が「地域共生社会」の実現や「地域福祉」の推進を掲げたものであるならば、市民後見人を単なる人的資源と捉えるのではなく、P. 51. 取組の方向5「人と人とがつながり、支え合う機会を広げます」においても明記して然るべきではないか。市民を人材としてのみとらえ続ける限り(例えそれが「人財」であったとしても)、市民活動＝行政のお手伝い、行政の人員不足の補てん。巷で聞く「市役所からアレやコレやと言ってきて、これ以上、われわれに何をしろと言うんや」という声になっているのではないだろうか。これが現実であろう。</p>	1件(1人)	<p>計画案のとおりとします。</p>	<p>取組の方向3に、</p> <p>「■市民は、ボランティア活動や地域における福祉活動のほか、市民後見人等の権利擁護にかかる支援活動を通じて、だれもが地域の一員として暮らせる福祉のまちづくり活動に参加・協力します。」を追記したことにより、いただいた御意見についても対応できているものと考えています。</p>

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第4章－取組の方向6福祉人材の確保に取り組みます(P.53)</p> <p>P53. 取組みの方向6「福祉人材の確保に取り組みます」の「社会福祉協議会」にある、「権利擁護サポーター養成講座」とはどのようなものか。ねらい(目的)やサポーター像、活動内容などをイメージすることができず、唐突に過ぎる印象を受ける。</p>	1件(1人)	御意見いただいた箇所について、取組の方向6の「 ■ 本人の意思を尊重することの大切さを学ぶ等の権利擁護サポーター養成講座等を開催します。」を削除します。	取組の方向3に、 「 ■ 市民は、ボランティア活動や地域における福祉活動のほか、市民後見人等の権利擁護にかかる支援活動を通じて、だれもが地域の一員として暮らせる福祉のまちづくり活動に参加・協力します。」を追記したことにより、いただいた御意見についても対応できているものと考えています。
<p>第4章－取組の方向6福祉人材の確保に取り組みます(P.53)</p> <p>P53. 他。計画の文中で「人財」という漢字を使われている。趣旨はよく分かり、使われることに異議を唱えるものではないが、地域福祉計画は行政の文書なので、言葉遊びと揶揄されないよう、あらかじめどこかにこの漢字を使うことの説明書きを入れた方がいいのではなかろうか。〔例〕地域共生社会の実現や地域福祉を推進する上で「人は」、正に「財産」であることから云々。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、文中の「人財」を「人材」に改めます。	人はかけがえのない財産という考えのもと、「人財」と表記しておりましたが、「人材」と意味に明確な違いがないことから、「人材」に修正します。
<p>第2章－2統計から見るまちの姿(P.14)</p> <p>■要介護(要支援)認定者数の推移について、詳細な計画である介護保険事業計画の数値にあわせたい。</p>	1件(1人)	御意見のとおり、介護保険事業計画の数値(時点)に合わせるよう修正します。	厚生労働省「介護保険事業状況報告」を基に、作成している為、その数値に合わせ、修正を行います。
<p>第2章－2統計から見るまちの姿(P.15)</p> <p>■出生数の推移について、グラフでは、一旦、R1に240に減少しているのに、H29とR3を比較するのか。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、「R1に240まで減少し、一旦、R2に274まで増加しましたが、R3には254まで減少しており、減少傾向にあると言えます。」に修正します。	グラフの推移として正しい説明となるよう修正します。

提出された意見等の内容	提出された意見の数(人数)	意見等を受けて市が検討した結果	意見等に対する市の考え方
<p>第2章－4 米原市の強みと解決したい課題のまとめ－ (4) 暮らしの安心・安全(P. 40)</p> <p>「■高齢者が特殊詐欺等の被害にあわない意識啓発や仕組みづくりが必要である。」について、‘仕組みづくり’とはどのような姿(現状からの見直し)を求めているのか。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、 「■意思決定が困難な高齢者等が特殊詐欺等の被害に遭わないよう、権利擁護支援体制の更なる強化と併せて市民の意識醸成が必要です。」に修正します。	仕組みづくりとして、権利擁護支援体制の更なる強化と、市民の意識醸成が必要であると考え追記します。
<p>第4章－取組の方向7 暮らしの安心を確保します(P. 55)</p> <p>「■詐欺や悪質商法等の消費者トラブルに対する周知・啓発と充実した相談窓口を整えます。」について、現在、消費生活相談窓口を設置し、周知・啓発を行っているのでは。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、 ■詐欺や悪質商法等の消費者トラブルに対し、相談対応や啓発活動を引続き実施します。 に変更します。	現状の状態に沿った内容に修正します。
<p>第4章－取組の方向7 暮らしの安心を確保します(P. 56)</p> <p>暮らしの安心を確保しますについて、文末に《関連する計画》の記載がない。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、 ■米原市障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画 ■米原市教育振興基本計画 を追記します。	関連する計画として未記載だった為、追記します。
<p>第1章－2計画の位置付け(P. 4)</p> <p>「本計画には誰一人取り残さない包括的な社会の実現に向けて重層的支援体制整備事業実施計画、成年後見制度利用促進計画および再犯防止推進計画の内容を含みます。」とあるが、成年後見利用促進計画や再犯防止推進計画等、計画本編内にて、章立てをして記載をしておくべきではないか。</p>	1件(1人)	御意見いただいた内容について、「重層的支援体制整備事業実施計画」、「成年後見制度利用促進計画」、「再犯防止推進計画」について、関連計画として記載をします。	本計画では、制度や分野ごとに「支える人」「支えられる人」に分けて福祉を考えるのではなく、世代や分野を越えて支え合う地域共生社会をめざしています。このため、重層的支援体制整備事業実施計画、成年後見制度利用促進計画、再犯防止推進計画を内包する計画としました。今後、本計画に基づく施策を推進する中で、3計画に含まれる施策を進行管理していくには、関連計画として個別に抜き出して内容を明確にすることが効果的であることから、関連計画として整理します。
	22件(6人)		